

■ 観天望 (編集委員会から) ①

編集委員長 石垣 (20期)

股のぞきする富士山

今回もまた編集委員の楠本さんが裏表紙の富士山の写真を選んでくれました。これは、YWOB会ホームページ内、歴史資料館の中の映像館にある1枚で「公式W 372番 1966年4月 L 養合宿(御坂山)-02 L 養合宿(御坂山) 股のぞきする富士山」と書かれています。

股のぞきと言えば天橋立で、股の間から逆さに見ると龍が天に昇って行く姿に見える、という飛龍観が有名です。しかし、富士山の場合、逆さにしたら何に見えるのでしょうか? 「逆さ富士」は有名ですが、これは富士五湖などで見ることができる、富士山が水面に逆さに映る情景ですから、股のぞきとは関係ありません。結局、股のぞきを何故したのかは分かりませんでした。1966年当時、何故股のぞきをしたのか、お分かりの方がいらっしゃいましたら、編集委員会にお便りをお願いします。

■ 訃報

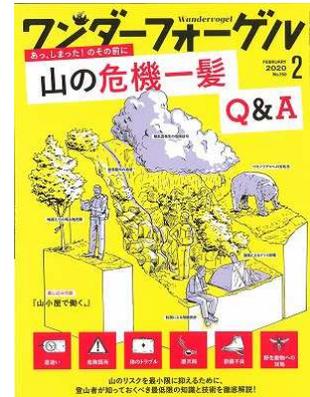
- ・宮崎氏 (2期) が2018年12月6日に逝去されました。
- ・蓮尾氏 (6期) が2020年2月26日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ワンダーフォーゲル

この原稿を書いている3月上旬は新型コロナウイルスのニュースばかりで、日本での感染者は日に日に増えピークがまだ見えない状況です。人が集まる場所や室内などの換気の悪い場所ではできる限り避けましょう、という報道で東京都はお花見の宴会も自粛要請を出しています。この会報が皆様に届いて読んでおられる4月上旬では、どうなっているのでしょうか。下火になっていることを切に願っています。

さて、世の中が新型コロナウイルスで大騒ぎになる前に、本屋でブラブラして面白そうな本を物色していたら、一冊の雑誌が目飛び込んで来ました。雑誌の名前は「ワンダーフォーゲル」。この単語には敏感に反応しますよね。副題は「山の危機一髪Q&A」おなじみ山溪の発行です。知っていること、興味をそそられること、全く知らなかったことなど色々な内容があり、楽しく読むことができました。その中からヘーッと思った内容を紙面の関係で2つだけご紹介いたします。詳しくは買って読んでくださいネ。

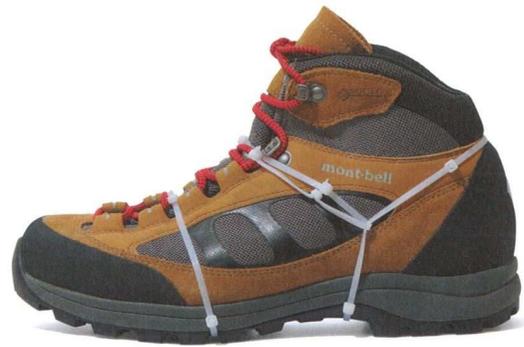


1. 登山靴のソールが剥がれた時

テープや針金を使うのは靴底のソールパターンが隠れてしまうのでダメ。結束バンドがオススメ。バンドの先端は邪魔なので、ハサミやナイフで切断する。

2. 雷が鳴った時

雷は高いところや突起物に落ちやすい性格がある。「金属を身に着けていると落ちやすい」というイメージがあるが、これは間違い。安全なのは建物の中。山小屋や避難小屋があればすぐに移動。



【 意外と知らないこんなところは危険 】

- ・壁が覆われていないあずまや、テント、木のそば、軒下。
落雷の危険がある。木のすぐ近くにいるのも、木に落雷した際に側撃雷を受ける危険性がある。

【 命を守るための退避の基本 】

- ・ハイマツや岩陰で身をかかめる： 周囲よりも高く飛び出した状態にしない。
- ・接地面を小さく： 姿勢を低く、腰をかかめ、手は地面につかない。電線に小鳥が止まっているイメージの姿勢。
- ・突起物は取り外す： 雷は鋭利な突起物に落ちやすい性格があるから、トレッキングポールなどは外す。
- ・一直線に並ばない： 退避する時に一直線に間隔を詰めて歩くと、連なる人の体を電流が真っすぐ通り抜けることがある。大人数の場合はなるべく人と人の間隔を空け、ばらけるようにすると被害が少なくなる。